

熊本県新型コロナウイルス地域区分基準表の改定について

本県では、感染者数が大幅に増加に転じるタイミングを早期に捉え、県民に迅速に警戒を発するため、専門家の御意見を踏まえ、4月16日に「熊本県新型コロナウイルス地域区分基準」を導入しました。

6月6日に開催された専門家会議での提言を踏まえて、感染拡大早期に警戒を発する考え方は変えず、より県民に分かりやすく、また、県市で連携した対応を強化するため、熊本市で導入されている「リスクレベル」との整合を図り、次のとおり「熊本県リスクレベル」として改定しました。

熊本県リスクレベル

あくまでも目安であり、現状がどのリスクレベルに位置付けられるか、また、具体的な対策は、本県あるいは全国の感染状況及びその傾向（拡大・縮小）を踏まえ、実施する地域やその内容も含め、総合的に判断します。

リスクレベル	県の判断基準	対策例
レベル4 特別警戒	県内で ①新規感染者15名以上 かつ ②リンク無し感染者8名以上	レベル3の対策に加え ・不要不急の外出自粛要請 ・県外等への移動自粛を要請 ・全ての催事等の自粛要請 ・施設への休業要請
レベル3 警戒	県内で ①新規感染者10名以上 又は ②リンク無し感染者5名以上	レベル2の対策に加え ・週末等の不要不急の外出自粛要請 ・催事等の自粛要請 ・施設への休業要請
レベル2 警戒	県内で①新規感染者が発生 かつ ②レベル3に該当しない場合	レベル1の対策に加え ・感染拡大リスクを高める3つの密が重なる催事の自粛要請 ・不特定多数が利用する県有施設の閉館
レベル1 注意	①国内で新規感染者が発生 かつ ②県内では新規感染者が未発生	レベル0の対策に加え ・3つの密が重なる感染拡大リスクが高い活動や催事において、まん延防止対策を行う
レベル0 平常	国内で新規感染者が確認されていない	・新しい生活様式の広報・実践

※ 「リンク無し感染者」とは、感染源が特定できないもの。
 ※ レベルを上げる場合は、週ごとに総合的に判断し、レベルを下げる場合は、前週、前々週の発生状況を踏まえ、同様に判断する。
 ※ 各所官施設の閉鎖においては、所在する市町村と情報共有し、調整に努めること。
 ※ 3つの密とは、①密閉空間（換気の悪い密閉空間である）、②密集場所（多くの人が密集している）、③密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）

（参考：従前の地域区分及び対応）

熊本県新型コロナウイルス地域区分基準

判断基準/週	地域区分	対応例
・県内が感染拡大傾向期であり、新規感染者数が前週の1.5倍以上 ・県内が感染拡大警戒地域であり、新規感染者数が前週の1.5倍以上の場合、維持	・感染拡大警戒地域	・外出自粛要請等 ・10名以上が集まる集会・イベントへの参加を避ける ・家族以外での多人数での会食などは行わない ・学校の臨時一斉休業も選択肢
県内で ①新規感染者 10名以上 又は ②リンク無し感染者 7名以上	感染拡大傾向期	「感染拡大警戒地域」と同じ対応を 一歩先んじて実施
県内で ①新規感染者 9名以下 かつ ②リンク無し感染者 6名以下	・感染確認地域	・「3密」を徹底的に回避 ・屋内で50名以上が集まる集会・イベントへの参加を控える
県内で 新規感染者 0名	・感染未確認地域	・「3密」を回避する対策 ・リスクの低い活動については注意しながら実施 ・行動変容*に向けた広報・啓発
県内で 直近の4週間新規感染者 0名	・収束	通常の感染予防活動

集計期間は熊本市と同一とし、認識を共有して評価する。
 地域区分は判断基準を参考とし、総合的に判断する。

感染拡大警戒地域の対応は、原則として2週間以上継続する。

※...感染拡大を防ぐため、住民が自らの行動を変えること